

足立区にもあった中世城郭

所在地:本木 2-5-10



なかそね 中曾根城址

現在、中曾根神社のある場所にかつて存在した中曾根城は、武蔵千葉氏の拠点だったと考えられています。武蔵千葉氏の祖は源頼朝に仕えた下総国しもつまのくに（現在の千葉県北部と茨城・埼玉県の一部）の千葉常胤つねたねで、15世紀に一族の内紛に敗れて武蔵国むさしのくに（足立区を含む現在の東京都・埼玉県）のほぼ全域と、神奈川県の一部）に逃れてきた一族です。下総国に残った千葉氏と区別するため武蔵千葉氏と呼ばれています。

中曾根城址からは、長さ19.2メートル、深さ1.2メートルの見事な堀跡や、石でつくられた中世の供養塔である板碑いたび、中世の陶器類などが見つかっています。東京低地で発掘された遺跡は、葛飾区の葛西城に続いて二番目のものであり、大変貴重な成果として、注目されています。



中曾根城の堀跡
(現在は埋め戻されています)

文化財豆知識 千葉氏の家紋 月星

中曾根神社境内の倉庫の門扉を見ると、武蔵千葉氏の家紋である月星が目に入ります。軍神である妙見菩薩みょうけんぼさつをあつく信仰した千葉氏の家紋は月星で、妙見菩薩の司る太陽・月・星を表しています。中曾根神社も、もともとは妙見社でしたが、現在は興野の雷神社と合祀され中曾根神社と名を変えています。



月星紋のアップ